

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4番32号		
自己評価作成日	平成26年7月9日	評価結果市町村受理日	平成26年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170502389-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホームでありたいと、町内の行事や催し物などには積極的に参加させていただき、交流の機会を多く持つようにしています。近くの小学校との交流は開設時から現在までも続いており、入学式、卒業式、春の運動会、秋の学習発表会など、わが子・孫の成長に重ね合わせ、喜びと楽しみ、感動と元気、生きる張り合いを頂いております。また町内会行事には努めて参加するようにして、この地で自然体で、近所付き合い、生活が続けられるように心がけております。玄関先での日向ぼっこや散歩の際には挨拶を交わし、日常的にも入居者さんへの気配りと安全への配慮をしてまいります。春には山菜、秋には自宅で収穫した野菜、お花を届けてくださるなど、何時も地域の方に見守られ、支えられ、温かさを感じながら暮らしております。地域の中で当たり前、普通に暮らし続けていけるのも、ご家族や行事の度に盛り上げてくださるボランティアさん、ご近所の方々の温かいご支援の賜物であると思っております。いずみの里の支援者、応援者としていつもいつも、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも繋がりと絆を大切にしていきたいと思っております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成26年 7月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、バス停から徒歩3分程の住宅街に位置し、周辺には飲食店、コンビニ、高齢者施設、学校等が点在し、生活環境に大変優れている地域です。職員は「敬う心、尊厳ある暮らし」の理念を具現化するために、ホーム理念や目標を掲げ、利用者の生き生きとした自然な暮らしを支えています。地域との関わりも深く、利用者は町内会の防災運動会や夏祭り、ふれあい音楽会等に積極的に参加し、ホーム主催の収穫祭には地域住民の参加協力を頂いております。更に小学校からは学芸発表会、運動会、卒業式等に招かれる等、ホームは地域との相互交流に努め、利用者の豊かな暮らしの継続に取り組んでいます。家族会を開催し、職員は家族の思いや意向を汲み取りながら絆を深めています。職員間のコミュニケーションは良好で、チーム一体となったケアに取り組み、管理者は、職員の育成と資格取得に向けて外部研修参加を促し、介護ケアのスキルアップに努めています。管理者、職員は利用者と共に笑顔で接し、日々笑いのある暮らしを目指したケアサービスに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目に触れる場所に掲示し、ケアを行っていく上で、常に 理念を念頭に置き、入居者さんに関わっている	運営法人共通理念である「敬う心、尊厳ある暮らし」を基に、5項目からなるホーム独自の理念を共有スペースに掲示し、更に、ユニット毎に目標も作成しています。職員は全体会議やユニット会議の場にて理念の意識づけと共有を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し事や町内会行事には積極的に参加し交流を深めている。また ホーム周辺の散歩や近くのスーパーマーケット、商店へは買い物などで日常的にお付き合いさせて頂いている	地域との交流は盛んで、町内会行事のお祭りや小学校の学習発表会に招かれたり、ホーム主催の収穫祭には地域住民の参加を頂くなど、積極的に関わりを持っています。普段の暮らしの中で、近隣住民の訪問を受け、利用者と歌を楽しむ機会も有ります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の催しなどに参加することで入居者様への関わりや支援の方法を見て頂いている。ホーム主催の行事等へもお招きし生活の一部を見て頂く事で認知症の理解に繋げている。また キャラバンメイト活動を通して理解と啓蒙を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容やご意見はケアの実践に活かし質の向上を図るように取り組んでいる	会議は、家族、町内会役員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヵ月毎に開催し、利用者の状況や運営状況、行事内容などの報告を行い、参加者から意見、要望を受け、双方向的な会議になる様に取り組んでいます。家族会も同時に開催しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	複雑事例や困難事例、不明な点があれば、札幌市や国保連、地域包括支援センターなどへ問い合わせ相談。担当者のアドバイスで解決にむけた協力を頂いている。市や包括主催の研修、勉強会、行政説明への参加、キャラバンメイト活動への協力等、協働・連携をはかっている	行政の各担当者とは、利用者、家族の個別の案件について相談しアドバイスを受け、課題解決に向けて協働が図られています。市や地域包括支援センター主催の認知症ケア会議に参加し、意見交換や情報の共有を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とはどのような行為の事」というリーフレットをユニット内に掲げ、いつも 職員やご家族、来訪者の目に触れるようにして啓発・啓蒙を図っている。研修会や勉強会にも積極的に参加し全体会議で発表。職員全員での話し合いを通して情報の共有を図り、ケアの実践に活かしている	ホーム長は、職員に外部研修の参加を積極的に促し、参加職員は全体会議にて発表を行って職員間で情報の共有を図り、身体拘束の弊害について周知徹底しています。不適切なケアを目撃した際には、職員間で注意し合う関係が構築されています。玄関は夜間のみ防犯上施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や毎日の申し送りの中でケアの確認を行い、職員間で常に話し合いの場をもち、防止の徹底を図っている。研修にも参加し知識を深め、見過ごされるようなことのない様、注意を払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関し、必要時には制度の説明や情報提供を行い相談に乗っている。実際に活用となった場合は円滑にいくように支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時にはパンフレットをもとに説明。契約時には重要事項説明書にて、十分時間をかけ、理解と納得、同意頂けたかの確認を行っている。契約解除の場合でも、不安や困りごと、今後のご希望を伺いながら、他機関に繋げるなどで不安の解消を図るようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議・家族会を開催。ご家族、町内の方、包括支援センターの方のご意見や要望をホームの運営や日々のケアの取り組みに反映させている。会議に出席できない場合でも手紙や電話、来訪時に伺ったり、お伝えするようにしている。入居者さんとの日々の会話の中からも気づきを反映させるようにしている	家族会を運営推進会議時に開催し、交流を深めると共に、職員に意見等を表せる機会作りに取り組んでいます。職員は話し易い雰囲気作りに努め、来訪時や電話連絡の際にも、家族の要望や意見を汲み取り、職員間で情報を共有しています。家族会案内状にも希望欄を設けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体・ユニット会議を開催し職員全員での話し合い、意見集約で運営に反映させている。	ホーム長は話し易い雰囲気作りに努め、全体会議やユニット会議にて、運営に関する意見、要望、提案などを聞き取り、実現に向け取り組んでいます。更に、楽しく働ける職場環境整備に努めています。職員は、レクリエーション、環境係、感染対策委員会を交代で担当し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には表彰と資格手当の付与でモチベーションの向上を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあった研修への参加、また自ら希望する場合でも研修受講の機会があり、働きながらトレーニングが受けられる。それらは全体会議で報告・発表し全員で共有できている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、連絡会や勉強会などの集まりには参加。交流と情報交換で日々のサービスと質の向上に役立っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階からご本人にもホームを見て頂き、面談の際にもさり気なく、不安に思っていることや困りごと、楽しみや暮らし方のご希望を語っていただけよう傾聴。ご様子から想いや求めていることを推し量るようにして、住み替えの不安を最小限になるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、入居が決まった段階でセンター方式アセスメント用紙への記入をお願いし、ご本人の生活歴を知り不安や苦悩に耳を傾けるようにしている。また 温かい言葉で今までのご苦勞をねぎらい、協働でご本人の暮らし人生を支えて行けるような信頼関係づくりに努め、ホームでの対応の可能な範囲も事前にお話して理解が得られる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時にご本人やご家族の話に耳を傾け、認知症の人のケアマネジメント「センター方式」を使いご家族と協働作業でアセスメントを行っている。ケアプランは5つの視点をもとに個別のものとし、必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応でその人らしく生きる、自立に向けた対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側と言う意識を持たずに、人生の先輩、貴重な知恵者として敬い、謙虚に教わりながらおたがいが協働して、楽しく和やかな暮らしとなるようにお膳立てや場面作りをしながら、関係性づくりに配慮した関わりと声かけを行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の想いに寄り添いながら、ご本人の暮らしの出来事や嬉しい事、出来る事、気づき等をお伝えして絆、関係性を大切にしている。また ご本人を支えて行く パートナーとしての関係性が築けるように協力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人を支えてくれた大切な方やご本人が支えてこられた方たちとの関係性が途切れる事のないよう、面会や外出、外泊等の支援で継続的に交流が続けられる様に努めている	職員は、家族をはじめ、近所の友人や昔の知人などの来訪を歓迎し、馴染みの関係の継続に努めています。1階には公衆電話が設置されており自由に使えます。手紙や年賀状のやり取りも、職員が支援しています。馴染みの店への買い物や馴染みの場所への外出、外泊を家族の協力も得て支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間、団らんの時間にも職員は一緒に加わり、会話や笑いの中で楽しいひと時となるように努めている。また 輪の中に入ることができず孤立することが無い様に調整役となって共に関係性が築けるような関わりとしている。気の合う人どうしの関係性作りで、落ち着ける生活となるように支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了しても、その後の状況や近況などを伺いホームに遊びに来ていただいたり、訪ねるなどで関係を断ち切らないようにしている。ご家族の相談にも乗りその後のフォロー、支援も行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのご希望や意向に関心を寄せ、ご家族、関係者からの情報やご本人の表情や仕草、日々の関わりなどの中から把握するように努めている	職員は利用者の思いや意向を家族からの情報や生活歴を基に、日常生活の場面での会話や表情、仕草から、一人ひとりの全体像を掘り下げ、利用者の視点に立ち意見を出し合いながら把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始の際、関係機関からの情報提供やご家族からの聞き取り、「アセスメントシート」の記入をお願いし把握に努めている。ご本人との会話の中からもこれまでの暮らし方などを把握し、日々の生活や今の暮らしに活かした支援としている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方から体調やできる事、分かる事などを把握し、お一人ひとりのリズムを尊重し、周囲との調和を図りながら、安心した暮らしとなるように支援としている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメント「センター方式」を使い、職員全員が参加したカンファレンスで意見交換をしながら、自分らしく暮らしていけるように計画を立て、情報は体系的に共有できるよう「ひもときシート」の活用もしている	家族の意向を伺いながらセンター方式のアセスメントを基に、6ヵ月毎にモニタリングを行い、ユニット会議やミニカンファレンスにて、利用者のケアサービス内容を職員間で話し合い、情報を交換し、介護計画に反映させています。介護計画は、6ヵ月毎に見直され、急変時には随時見直されています。	介護計画と生活記録が連動した分かり易い書式が望まれます。ホーム長を中心に、職員全員で更に検討し、計画、実践、評価の流れに基づいた適切な記録方法の検討に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やご本人の言葉や関わりとその結果を個別記録に記入し全職員が勤務に就く前に確認、情報を共有しながらケアに当たっている。また 介護計画の評価や見直しの際にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から安心して頂けるように、通院や入・退院、外出、外泊など状況や要望を考慮しながら、柔軟な対応で満足いただけるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多様な社会資源の把握に努め、それらとの協働を模索しながら、ボランティアさんや関連施設への働きかけを行っている。運営推進会議では、町内の民生委員の方、婦人部の方などが参加していただき、支援と協力を頂いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる場合は受診の結果を共有できるようにご家族からの情報伝達や場合によっては同行受診し、体調を含めた日常の様子、暮らし方などを伝え、適切な医療を受けられる様に支援している。	協力医による月1回の往診が実施されています。他のかかりつけ医への受診は、家族対応を基本としていますが、状況により職員も同行支援しています。週1回の看護師の配置や訪問歯科による口腔ケアなど、適切な健康管理が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師やホーム医の看護師とは気軽に相談できる関係性ができている。また ホーム医の看護師は医師への橋渡しもしてくれるので、安心して適切な医療が受けられる様になっている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「介護要約」の提供で治療がスムーズに受けられる様、入院によるダメージを最小限に防ぐために、ご家族の協力を得ながら病状説明の際にも同席させていただくなどしている。また 早くからソーシャルワーカーや看護師を通して情報を得るようにして、早期退院に向けた働きかけを行っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた場合のホームでできる対応について、入居相談の段階から行っている。また ホーム医の支援、協力のもとに、地域の関係機関の協力が得られる様繋がりを持っている	「重度化対応・終末期ケア対応・看取り指針」を整備し、本人、家族に説明を行い、同意書を頂いています。ホームの方針としては、看取りは行わず、医療機関等に移行する考えを示していますが、出来る限りのケアサービスに取り組み、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は救命救急講習を受講。また 継続しての訓練を受けて、急変時や事故発生時には即実践に活かせるよう身につけている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に防火・防災訓練を実施。消火器の使用や夜間を想定した避難誘導訓練も行っている。姉妹施設や近隣施設とは非常時にはお互いに助け合い、駆けつけ、避難場所として、また 軒先を借りる等の協力体制を取っている	消防署の指導の下、年2回昼・夜を想定し、利用者と共に避難訓練を実施しています。近隣の系列のホームや高齢者施設とは協力体制を築いています。職員は救急救命講習を受け、防災設備点検も定期的に行われています。非常用備蓄品も確保されています。	運営推進会議にて地域住民の避難訓練参加協力の呼びかけを行い、具体的な役割についても協議し、推進される事を期待します。火災以外にも自然災害や大規模停電など、予期せぬ事態を想定した災害対策も望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議等で個人情報保護法や漏洩防止について勉強会やミーティングを行い意識の向上を図っている。普段の介護の際にも、自尊心やプライバシーに配慮した声かけや関わり、対応を心掛けている	言葉かけや対応には十分な注意を払い、特に入浴時やトイレ誘導の際には、プライドを傷つけない様に、利用者の立場に立ち行動する様に心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な場合であっても、表情や全身の反応で思いや希望が表わせるように働きかけ、さり気ない対応を心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりのリズムやペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいのか、ご本人の気持を尊重した個別性のある対応、支援となるように心がけている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人の生活習慣に合わせた支援としている。日常会話の中からご本人の意向や好み、こだわり等を把握して、一緒に選ぶなどで、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中から食べたい物や好みをお聞きし提供する様にしている。味付けや盛り付けなど、できることを一緒に行い、食事までの過程も楽しめるように支援を行っている	献立は、利用者の嗜好と栄養バランスを考え、30品目の食材使用を目指しながら、職員が作成しています。一部の利用者は、買い物や調理、下準備等を手伝っています。夏は外でバーベキューが行われたり、外食も企画し、利用者に喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常に記録に残しながら全員で共有。むせ込みや嚥下の状態なども観察、医師や看護師と連携しながら支援に当たっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、歯磨きの声かけで個人に合わせた介助を行っている。毎週、歯科医師の往診と衛生士による口腔ケアと指導を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人々の排泄パターンやリズムを把握し、必要に応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、表情や動作を見極めながら、時間誘導や尊厳に配慮した声かけを行い、トイレでの排泄を大切にされた支援に取り組んでいます。利用者の状態に応じた下着や衛生用品を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、繊維質の多い食材を献立に取り入れるなどの工夫をしている。散歩などの適度な運動を心がけ、自然排便に繋がるように取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一方的に入浴日を決める事はなく、個人々の希望や体調などを確認してから入浴にお誘いしている	入浴は週2~3回を目安に、午後の時間帯に実施していますが、希望があれば毎日入浴出来る体制が整っています。拒む利用者には、職員を替えたり、タイミングを工夫しています。入浴時は、利用者との会話やスキンシップを大切に考え、支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中に活動を促し、就寝時安心して眠れる様に支援している。個人々の体調を考慮し、日中でも休息時間を設ける工夫を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用し、薬の目的や副作用を確認、理解する様に努めている。心身上の変化や気づきは速やかに医師や看護師に連絡し対応を相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人々のできる事、得意なことをアセスメントや普段の関わりで把握し、できる家事や趣味活動に繋げ、満足感や達成感が得られるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの中で一日中過ごすのではなく、天候や気分、ご希望に沿って、買い物やドライブ、玄関先のベンチでの日向ぼっこや畑での収穫など戸外へ出る機会を作っている。お祭りやお墓参りなども地域の方々、ご家族の協力のもと実現できている	町内会行事や小学校行事に加え、ホームの年間行事のお花見やよさこいソーラン、イルミネーション見学など毎月外出の機会が持たれ、気分転換が図られています。日常的には、玄関先での日向ぼっこや散歩、買い物と戸外に出て、地域の方達との触れ合いを楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。基本的にはご家族が管理されているが、ご本人が少額を手元に持つことで安心されている。お正月にはお孫さんやひ孫さんにお年玉を渡し、喜ばれている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出すための支援や、電話をかけた後、取り次ぐなどの支援を行っており、その際 プライバシーへの配慮にも気を配っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾り付け、行事の写真などでおしゃべりを楽しみ、居心地よい空間作りとしている。玄関にも四季の祭事を楽しむ飾り付けやお花活けるなどで、入居者さんやご家族、来訪者との話題づくりに活用している。室温や採光などもカーテンなどで調節し、心地よい音楽や懐メロ、ご飯の炊ける匂や野菜を刻む音など、家庭的で落ち着ける雰囲気を醸し出せるように演出している	居間の中央テーブルには季節を感じる生花が飾られ、窓辺や玄関にも植木鉢が置かれています。壁にも行事で撮った写真が掲示され、話題のきっかけ作りになっています。絵画や季節の飾りつけも施され、廊下には一人で過ごしたり、仲よし同士が寛げるソファや椅子も配置され、利用者が楽しんで過ごせる空間となっています。悪臭や騒音も無く、温度や湿度も調整され快適な暮らしを提供しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に椅子を置くなどして、ひとりになれる空間や気の合う方と過ごせるスペースを作っている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本にと相談しながら、馴染みの品や使い慣れた家具をご家族の協力でご持参いただき、安心して落ち着ける空間となるような設えとしている。住み替えによるダメージを最小限にし、今までの生活の継続が図られるように工夫している	家族の協力の下に、利用者の意向に沿った馴染みの家具や冷蔵庫、装飾品、仏壇等が持ち込まれています。居室には、家族写真や絵画、カレンダー等も飾られ、利用者が落ち着いて過ごせる環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動線上には歩行の妨げになるものを置かないようにして、証明、手摺り、家具などの配置の確認などで、お一人ひとりの「できる力」「わかる力」を活かして混乱や失敗を防ぎ、安全に自立した暮らしとなるよう、住環境の見直しをご本人の日常生活動作に合わせて行っている			